

熊本県下益城郡松橋町

松橋方言の比喩語について

一森 綾子

はじめに

1. 調査対象地：松橋町は熊本県のほぼ中央にあり、国道3号線、218号線、九州縦貫道路のインターチェンジ、JR鹿児島本線が通っており、交通の便に非常に恵まれた所である。松橋町は全体的には農業を主とする地域で、稲作の他、施設園芸（シクラメン・蘭）、果樹栽培、蓮根栽培、い草栽培が盛んである。今回調査した松橋町大字松橋は、江戸中期から昭和の初めまで、松橋港を有し、商業の町として繁栄をみせたが、現在は官公庁やアパートが多く、交通の便が良い為ベッドタウン化しつつあり、平均年齢の低い地域である。1992年11月末現在の松橋町大字松橋の戸数は1865戸、人口は5720人である。
2. 調査年月日時：1992年9月5日 13時25分～15時30分
3. 教示者：福田ヤエ氏 1916年（大正5年）3月7日生（76歳）
緒方栄子氏 1927年（昭和2年）1月5日生（65歳）
関 政子氏 1927年（昭和2年）4月6日生（65歳）
他に、生え抜きで在外歴の無い70歳代の男性2名にも同席してもらった。
4. 調査者・調査場所：一森綾子、教示者（福田ヤエ氏）宅の居間
5. 調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。必要に応じて同席の男性にも発言を求めたり確かめたりした。教示者から指摘された比喩語も調査項目に加えた。教示者の娘さんは私の勤務校の卒業生ということで、共通の話題もあり、終始うちとけたなごやかな雰囲気での比喩語の調査にふさわしかった。

I 《 自然現象 》

- 1 日照り雨 ① ヒノテリアメ（日の照り雨）老年層 盛 古 中、（福田） ② テンキアメ（天気雨）中・老年層 普通 古 中、 天気が良いのに降る雨という意。
- 2 入道雲 ① ヒューガタロー（日向太郎） 老年層 稀 古 中、 日向の国の男という意。三太郎峠、或は利根川を阪東太郎などと称する類か。方角が宮崎県側に出る雲であることに由来した命名。（男性）
- 3 旋風 ① チリマキカゼ（塵巻風）老年層 稀 古 中、 塵を巻き上げる風という意。 ② ウズマキカゼ（渦巻風） 中年層 稀 新 中、 渦を巻く風という意。旋毛のことを今の子供達はウズマキともいう。（男性）
- 4 霜柱 ① シモバシラ 若・中・老年層 普通 古 上
- 5 つらら ① ホグラ（穂垂れ）（棒垂れ）の転か。老年層 稀 古 中、 水をツズラといていた。（福田）
- 6 北斗七星 ① ヒシャクボシ（柄杓星） 若・中・老年層 盛 古 中、 柄杓の形

をした星という意。

7 すばる 無解答

8 流れ星 ① ナガレボシ 若・中・老年層 盛 古 上、流れ星は、願い事を唱えると叶う。(緒方) 不吉なことが起こる。(福田) 人が亡くなる。(男性)

II (動物)

9 かわはぎ ① ヤノイオ(矢の魚)(緒方) 勘違いかと思う。アイゴをヤノイオ、又は、尿臭いのでバリともいう。(男性)

10 ひらめ ① ヒラメ 魚の形の特徴を「左ひらめに右かれい」と言う。したびらめのことをクツゾコ(靴底)という。魚の形が靴底の形に似ているため。

11 ひきがえる ① ワクドー(わく童) 中・老年層 盛 古 中、ワクワクと鳴くので、擬声語かと思う。(男性)

12 青大将 ① クランヌシ(蔵の主) 中・老年層 稀 古 中、蔵の主という意。
② クチナワ(口縄・朽ち縄) 若・中・老年層 稀 古 中、口の付いている縄の意。(緒方) 朽ちた縄の意。(男性) ③ ネズミトリ(鼠捕り) 中・老年層 稀 古 中、鼠を捕るという意。

13 とかげ ① トカゲ とかげに指さしてはいけないと言っていた。(緒方)

14 かまきり ① オガメ(拝め) ② オガマナトーサン(拝まな通さん) ① 少・中・老年層 稀 古 中、格好が拝むようにしているところから ② 少・中・老年層 稀 古 中、拝まねば通さないという意。

15 みずすまし ① ゲンゴロー(源五郎) 若・中・老年層 稀 古 上、源五郎 あめんぼうをアメンチョという。飴坊は、水飴のような臭いがするところから。ボウ、チョは共に愛称辞であろう。(男性)
瘦せて目が小さい人に「アメンチョんごつしとらす」と言っていた(緒方)

16 きつつき ① キツツキ 見たことが無い。話や、絵本でしか知らない。

17 せきれい ① イシタタキ(石叩き) 若・中・老年層 盛 古 上、尾で叩くから

18 ふくろう ① ホーゾドリ(宝蔵鳥) 老年層 稀 古 中、ふくろうの格好が宝蔵(巾着)に似ているところから。ホウホウと鳴くから。(福田) ② ネコドリ(猫鳥) ふくろうの顔が猫に似ているから。(緒方) ふくろうも鼠を捕って食べるから。(男性) ③ コーゾドリ 宝蔵鳥から変化したものか。(男性)

III (植物)

19 馬鈴薯 ① ジャガイモ(ジャガタラ芋) 若・中・老年層 盛 新 上、ジャガタラから伝わってきた芋の意。(男性) 甘藷をカライモ(唐芋)・サツマイモ(薩摩芋)という類か。(男性) 甘藷のことを十三里ともいう。栗より(九里四里)うまいという意。(緒方、男性)

20 とうもろこし ① トーキビ(唐黍) 若・中・老年層 盛 新 上、唐から伝わ

った黍という意。(男性)

- 21 いんげん豆 ① サンドマメ(三度豆) 中・老年層 盛 古 中、年に3回収穫できる豆という意。不知火町永尾地域では、なたの様な形からナタマメとも言う。
- 22 そらまめ ① ナツマメ(夏豆) 若・中・老年層 盛 古 上、収穫時が夏であるところから。
- 23 きくらげ ① ミミナバ(耳なば) 中・老年層 盛 古 中、耳の格好をしているきのこという意。
- 24 げんのしょうこ ① ゲンノショーコ(現の証拠) ゆきのしたをイシャイラズ(医者いらず)・ゲカタワシ(外科倒し)とも言う。(男性) 中・老年層 盛 古 中
- 25 どくだみ ① ドクダンソー(毒だみ草) 若・中・老年層 盛 古 中、毒を下す
- 26 いたどり ① スカンボ 若・中・老年層 盛 古 中、茎の中が空洞である。
- 27 からすうり ① ヒメゴリ(姫ごり) 中・老年層 稀 古 中、大きくて緑色のものをゴリと云う。ゴリより小さくて可愛いので姫ゴリとなった。(男性) ゴリで堤灯を作ったりおぼけを作ったりして遊んだという。(男性)
- 28 すみれ ① スミレ むらさきかたばみをケンカグサ(喧嘩草)という。中・老年層 稀 古 中、茎を芯だけにして葉をからませて喧嘩をさせて遊ぶから。
- 29 春蘭 ① ジジババ(爺婆) 中・老年層 稀 古 下、花の形から。(男性)
- 30 母子草 無解答
- 31 ねむの木 無解答

IV (性向)

- 32 熱しやすく冷めやすい人 ① ワラダイマツ(蕨大松) 若・中・老年層 稀 古 中、一瞬にして燃え尽きる意。(福田・関・男性)
- 33 あわてん坊 ① ウロタエヒョーガン(狼え剽悍) 老年層 稀 古 中、行動が素早いこと。(緒方・関)
- 34 動作の鈍い人 ① ドンガメ(鈍亀) ② ノロマ(鈍間) ③ グズロ(愚図郎) ④ カスネンノハイル(柏念の入る) 要らないところに念を入れること。
- 35 嘘つき ① センゾラ(千空) 老年層 稀 古 中、千の空事という意。(福田) ② センミッツ(千三つ) 千の内に真実は三つという意。(緒方)
- 36 ほらふき ① ダボラ(駄法螺)(男性) ② オーブロシキ(大風呂敷) 若・中・老年層 盛 新 中、大法螺吹きからの転か。(男性)
- 37 おしゃべり ① ホーソーキョク(放送局) 若・中年層 盛 新 中、(緒方・関) ② アゴタン(顎たん) 中・老年層 盛 古 中、(福田・男性)
- 38 冗談言い ① ヒョーゲモン(剽軽者) 中・老年層 盛 古 中
- 39 口先だけの人 ① フロヤンカマ(風呂屋の釜)(福田・男性) ② ヒナグノユ(日奈久の湯) 中・老年層 稀 新 下、日奈久は地名で温泉地。風呂屋も日奈

久もどちらも湯（言う）ばかり。（福田・関）

- 40 とんちんかんなことを言う人 ① ヒョコタン（ヒョコ垂れ）タンはタレからの変化か。中・老年層 盛 古 中、ひょこひょこしている人という意。擬態語かとも思う。お馬鹿さんのことをアンボンタンという。（男性）
- 41 のらりくらし煮えきらない人 ① ジングシトル（人後している）擬態語かとも思う。若・中・老年層 稀 古 下、子供が親に付き従って離れない様子にもいう。豆が半煮えて固くどうしようもない時「豆んじんごしとる」と言う。（男性）
- 42 怒りっぽい人 ① シマヘビ（縞蛇） ② ハラカキジョーゴ（腹かき上戸）
- 43 気むらな人 ① オテンキヤ（お天気家） ② ムラギシヨク（むら気色）
- 44 泣き虫 ① ナキベス（泣きべそ） ② ナキジョーゴ（泣き上戸）泣くのが上手という意。酒に酔うと泣く癖のある人にも「ナキジョーゴ」と言う。
- 45 おてんば娘 オトコマサツ（男勝り）男より勝っているという意。
- 46 腕白坊主 ① ガキダイショー（餓鬼大将） ② ワルゴロ（悪ごろ）
- 47 出しゃばり ① オセッカイ（お節介）
- 48 どこへでも顔を出す人 ① シャマギル（先まくる） ② デベソ（出臍）
- 49 家にこもって外出しない人 ① ミソガメ（味噌瓶）「味噌がめん出たけん雨ん降った」
- 50 小心者 ① セセンノキントノヤツザキ（せせりのきんたまの八つ裂き）（緒方）
② セセンノキモ（せせりの肝） ③ キモンズノコマカ（肝のすがが細い）（男性）
- 51 内弁慶 ① ガクヤベンケイ（楽屋弁慶） ② ヒッコミジアン（引っ込み思案）
- 52 人づき合いをしない人 ① イヒュモン（異風者）変り者で人付き合いが苦手な人。
- 53 妻に対して頭の上がない男 ① ユモジカブセラレトル（湯文字被せられている）湯文字とは腰巻のこと。最近「尻に敷かれとらす」という。（緒方）
- 54 けち ① コスタクロ（狡た九郎） ② コスンボ（狡ン坊） ③ オオノクロベイ（大野九郎兵衛）昔、大野九郎兵衛という締り屋の勘定方の役人がいたという。
- 55 欲張り ① ニギリ（握り）握ったら離さない意。（関）

V 〈食生活〉

- 56 大食漢 ① ソコナシ（底無し） ② ドンガメ（どん瓶）大きいかめでどれだけでも入るという意。ドンは接頭語かとも思う。又は、食欲の貪であろうか。（男性）
- 57 ぼたもち ① オハギ（お萩）ボタモチは牡丹餅の意味。春に作るのが「ボタモチ」、秋に作るのが「オハギ」だという人もある。自家製で大きいのが「ボタモチ」で、お店に出ている上品な小型のが「オハギ」という人もある。（緒方）
- 58 砂糖味が薄い ① サトヤントーカ（砂糖屋が遠い）他地域の人で「シモガタントーカ」と言うのを聞いたことがある。砂糖の産地の下方（昭和初期、熊本では三角町郡浦大岳辺りが砂糖の主産地であった）に由来する。（男性）
- 59 塩味が薄い ① シオヤントーカ（塩屋が遠い） ② アマカ（甘い） ③ ウサブ

- カ（薄甘い） 塩味が強いときには、「カルカ」の他に「シオバイカ」ともいう。
- 60 大酒のみ ① ウワバミ（鱗）大蛇のこと。女性の場合に使う言葉とのこと。（緒方） ② ショースケサン（庄助さん）酒好きの男性。民謡「会津磐梯山」に由来。
- 61 酒に酔ってくだをまくこと ① スイキョーマウス（酔狂回す）
- 62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま ① ベンケイサンノカジミマイ（弁慶さんの火事見舞い）武蔵坊弁慶の赤ら顔が火照りで更に赤さを増す。誇張された表現。

VI 〈 動作・様態 〉

- 63 恥ずがしくて顔が赤くなる ① セキメンスル（赤面する）
- 64 どしゃ降りの雨 ① バケツヒックリカエシタゴツフル（バケツひっくり返したように降る）若・中年層 普通 新 中（緒方・関） ② テンジョンウッボゲタゴツフル（天井が穿てしまったように降る）中・老年層 普通 古 中（福田）
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ① ヌレネズミ（濡れ鼠）
- 66 服装がだらしない様 ① ズンダレ（ずん垂れ）ぐっとと言う意のずんとからか。
- 67 髭がのび放題なさま①ヒゲムシャ（髭武者）② ガンゾーンゴタル（松橋の乞食の名）
- 68 厚化粧をしている人 ① カベヌリシトラス（壁塗） ② シラカベ（白壁） ③ コテヌリ（鍛塗り）昔の壁は厚かった。その厚い壁のように化粧している意。（男性）
- 69 背丈の高い人 ① デンシンバシラ（電信柱） ② ノッポ（不明）背が低い人にはニッチュンカゲボシサン（日中の影法師さん）という。日中は影が短い。（緒方）
- 70 出びたい ① デマッコ（出真向） ② デブチン（出縁）縁が出ている意。
- 71 汗が額から流れ落ちる ① タキノゴタルアセ（滝のような汗）
- 72 目を丸くする ① メバチョコノゴツスル（目を猪口のようにする）（福田） ② トチメンバウタス（栃麺をうつ）びっくりして慌てること。（緒方）
- 73 口をとがらす ① クチトンガラカス（口を尖らせる）
- 74 焦げ臭いにおい ① コガレクサカ（焦がれ臭い） ② キジメクサカ（黄じめ臭い）
- 75 遠廻り（をす）① トオマワリ（バスル）
- 76 末っ子 ① スックレ（裾垂れ・末垂れ） ② オトンボ（末坊） ③ スソゴ（裾子）断水でスックルモデラン（一滴も出ない）などと使う。関連があるのかも知れない。
- 77 一生懸命頑張る ① キバル（息張る） ② イケズム（息む）力むと同義。
- 78 こがね蜘蛛 ① ヤマコブ（山こぶ）ヤンコブともいう。山にいる蜘蛛の意。
- 79 足高蜘蛛 ① ヌストコブ（盗人こぶ）夜行性であるところから。（男性）
- 80 めごち ① ヨドグチ（淀ごち）よどよどしたごち。 ② ナンクレ（意味不明）
- 81 いそぎんちゃく ① インノジゴ（犬の肛門）山手の地域の人は知らないようだ。
- 82 さるとりいばら ① カッカライゲ（牡蠣殻いげ） ② マンジュンハ（饅頭の葉）
- 83 おごのり ① ナゴヤ（名古屋）浅草海苔に対してか。
- 84 れんげそう ① フソバン（宝蔵花）田圃にれんげそうを植えると土が肥えて、米

- の豊作につながるからか。宝蔵とは巾着のこと。(男性)
- 85 すぎな ① ジゴクグサ(地獄草) 根が地獄まで延びているという意。② ツッグサ(繫草) 遊びからの命名。③ マツナグサ(松苗草) 松の苗に似ているから。
- 86 非常識な人 ① ウッバズレ(打ち外れ) いい加減な人をウーバンギャ(大番外)
- 87 早合点 ① サキバシリ(先走り) 若・中・老年層 普通 古 中
- 88 差し出がましい ① シャマギル(先まくる) 中・老年層 普通 古 中
- 89 物知り ① イキジビキ(生き字引) ② ハカセ(博士) 博士のように詳しい意。
- 90 まめまめと働く人 ① シロネズミ(白鼠) 白ねずみは幸福を呼ぶという言葉伝えがある。働き者がいると家が栄えるところから、白鼠に譬えた。チューチューというなき声から家の為忠実な働き者ということ。(男性)
- 91 鶏肉 ① カシワ(柏) もとは羽毛が茶褐色をした鶏の俗称。その鳥の肉。(男性)
- 92 馬肉 ① サクラ(桜) 桜色をしている肉という意。(男性)
- 93 猪の肉 ① ボタン(牡丹) 柏や桜に対しての牡丹か。端溪石の猪肝色に関連するのか。
- 94 甘すぎる事 ① ドケダッカ(毒気高い) ② シトラシカ(舌らしい)
- 95 行き帰り無駄をしない事 ① アゲノコスル(あげ鋸する) 往復仕事をする鋸。
- 96 麦粒腫 ① インノクソ(犬の糞) ② オヒメサン(お姫さん) ③ メバ(目腫れ)
- 97 飛び出したきり帰ってこない ① テッポータマ(鉄砲の玉)
- 98 上腕部 ① エダ(枝) 足にはエダとはいわない。背中がゴチャ(五体)ヘキ(壁)
- 99 頭でっかち ① シャヅチアタマ(才槌頭) ② ドングァンノオーアタマ(鈍がんの大頭)
- 100 痩せている人 ① ヤセギス(痩せぎす) 「ギスギスしとらす」② ヤセギメ(痩せぎめ) バッタの仲間で小形のものにギメという。昔はギスとも言ったその名残かと思う。

まとめ

- (1) 回答無しの項目が3項目あった。(すばる、母子草、ねむの木)
- (2) 共通語形と同じ語形の項目は9項目であった。(霜柱、流れ星、ひらめ、とかげ、きつつき、げんのしょうこ、すみれ、遠廻りをする、口をとがらす)
- (3) (78)~(100)は一森が追加した項目である。これは教示者からこういうのも有ると補足教示されたものである。時間が許せば更に多くの項目があげられたと思う。
- (4) 動・植物の比喩語では、かまきりが「おがめ」、せきれいが「石叩き」、ふくろうが「猫鳥」・「ほーぞ鳥」など外観や生態に着目した感覚的発想が顕著である。
- (5) 甘藷が「十三里」などと言うのは遊びの要素を持ち面白い。熱しやすく冷めやすい人の「菜大松」、口先だけの人の「日奈久の湯」、おしゃべりを「放送局」、飛び出したきり帰らないを「鉄砲の玉」、背の低い人の「日中の影法師」などもそうである。
- (6) 入道雲を「日向太郎」などと擬人化したり、又物語の登場人物に譬えたり、又は卑劣の物の名を用いて相手を批評するなど方言の比喩語は微妙で奥深いものがある。

(いちもりあやこ 熊本県立松橋高等学校)